

広島平和記念資料館 令和5年度第1回企画展

新着資料展

—令和3年度寄贈資料—



大火傷を負った息子に着せた父親のワイシャツ

入場無料

期間 2023年(令和5年)9月14日(木)～2024年(令和6年)2月27日(火)

会場 広島平和記念資料館 東館1階 企画展示室

広島平和記念資料館には、現在でも被爆者やその遺族の方々などから、大切にしてきた遺品をはじめとする被爆資料、自らの体験を描いた絵、当時の状況を撮影した写真などの資料が寄せられ続けています。

この展示会では、令和3年度(2021年度)に寄贈された744点の資料から、150点を紹介します。

自らの体験を数多く絵に描いてきたある被爆者の男性は、8歳で被爆死した妹を改めて絵に描きました。「妹は、なぜ人生8年、なのか!」、絵に書き込まれた言葉には肉親を亡くした無念が滲み出ています。

原子爆弾の使用が何をもたらすのか。ここに紹介する資料は、様々な側面から私たちに語りかけます。

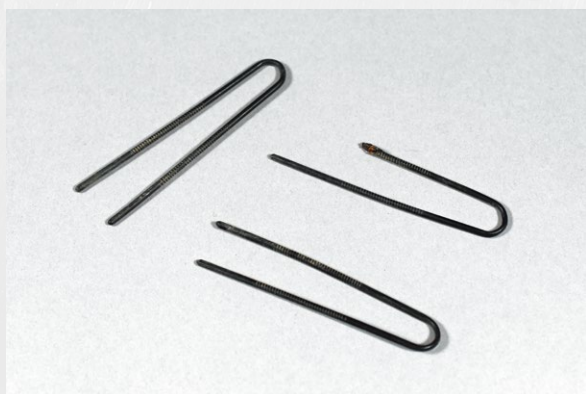
2023年(令和5年)9月 広島平和記念資料館



遺品となったランドセル 前岡眞仁 寄贈



金庫に入っていた弁当箱 加藤純久 寄贈



遺骨とともに骨壺に入っていたヘアピン
梶山修治・斎藤玲子 寄贈



被爆死した妹 尾崎修作・寄贈
*一部画像を加工しています。

